'90ジャパンカップを終えて

(財)日本ハンドボール協会
専務理事　安藤純光

JAPAN CUP '90は、東洋証券株式会社の大きな支援を受けてゴールデンウィーク後半の5月4・5・6日の3日間、新装となった東京体育館において開催された。女子には当時のメンバーとは大きな変更があったとはいえ、ソウル・オリンピック金メダルの実績をもつ韓国とフランスを、男子にはメンバー変更はあったが先の世界選手権大会においてチャンピオンの座のついたスウェーデンとアメリカを招待して開催された。

迎える日本男女新生ナショナルチームにとってこの大会は、9月に北京において開催されるアジア大会、そして来年8月に広島において開催されるアジア選手権大会兼バルセロナ・オリンピック・アジア予選に向かってのスタートであり、一つの試金石であった。個々の競技についての詳細な内容・分析については、他に譲ることとするが。

日本女子ナショナルチームは、第1日（5月4日）対韓国戦を戦った。ソウル・オリンピック金メダルメンバー4名を含む韓国チームは、すべての面で日本を上回り、日本は韓国に前半を6対18と大きくリードを許し、韓国は余裕をもって折り返す経過をたどった。日本は後半を互角に戦ったが、残念ながら力の差が歴然とした対戦であった。

日本選手ではNo18竹吉由江（日体大）の6得点が光っていた。韓国対フランス戦は、フランスが善戦し前半を13対13の同点で終わり、後半に入っても追いつ追われつの好ゲームとなったが、韓国のNo5 Lee Mi-Young、No11 Suk Min-Hee、No13 Im Mee-Kyung の得点力が、フランスのNo2 Roca Pascale、No3 Dugray Isabelle、No11 Marchand Christel の得点力が上回り、28対25で韓国が勝利し、1位の座についた。韓国GK No1 Song Ji-Hyeon の好守も特筆すべき活躍であった。

第3日、日本は2位をかけて対フランス戦を戦った。前半を終わって日本は9対13とリード、勝利への期待をもったが、後半に入って No9 Reutor Catherine、No14 Sauval Florence、No15 Sartorio Valelieらの得点が、4得点の武津優子、3得点の小池美由紀、市来美央、比嘉晴美、日比野雅子、竹吉由江の得点を上回り逆転を許し、2位の座はフランスのものとなった。日本女子ナショナルチームは、3位に甘んじなければならない結果となったが、新しい戦力の芽生えもあり、今後の強化に期待したい。

男子は第1日にアメリカ対スウェーデン戦が行われた。前半スウェーデンは、No5 Ola Lindgren、No14 Magnus Andersson らが得点を重ね、15対8と大きくリードした。後半アメリカは、No8 Matt Ryan などの得点によって12対10と追い上げたが及ばなかった。

第2日、日本男子ナショナルチームは対アメリカ戦を戦った。日本はベテランNo4宮下和広、ニュースターNo15中山剛らの活躍によって前半を12対7とリードし、ゲームの主導権を握った。後半に入っても、好調日本の得点力はアメリカを上回り、貴重な勝利をものにし、第3日スウェーデンと1位の座をかけて対戦した。

日本はNo3玉村健次を中心に好調なスタートをきり13対12とリードして前半を終わり、後半に期待をつないだ。後半スタート間もなく2連続得点を許し逆転されたものの、追いつ追われつの好ゲームを展開し、スタンドを沸かせた。18分をすぎて、4連続得点を許して19対24と水をあけられた。日本も25分を過ぎて、中山、宮下で3連続得点をあげたが僅かに及ばず23対25で敗れ、スウェーデンに次いで2位であった。

日本男女ナショナルチームは、明年広島において開催される男子第6回・女子第3回アジア選手権・兼バルセロナ・オリンピック・アジア予選に向けての強化策の一つとして、JAPAN CUP'90を戦った。戦績は必ずしも『よし』といえる結果ではなかったが、今後の強化の方針、対策に対する十分な資料を得ることができたであろう。これらの資料を分析・検討し、期待されるニューパワーの台頭とあわせて一層の強化をはかり、初期の目的を達成したいものである。

最後になったが、JAPAN CUP'90を開催するに当たってご協力をいただいた東洋証券株式会社をはじめ東京都協会ならびに関係各位に対し厚く御礼を申し上げる。

男子

'90ジャパンカップ

▼第1戦（5月4日）
スウェーデン 25（10－12、15－8）20 アメリカ

▼第2戦（5月5日）
日本 24（12－10、12－7）17 アメリカ

▼第3戦（5月6日）
スウェーデン 25（12－10、12－13）23 日本

〔順位〕
①スウェーデン（2勝）
②日本（1勝1敗）
③アメリカ（2敗）

GK橋本が好守を見せる

■日本対アメリカ

スピードとテクニックに勝る全日本が、高さとパワーで勝負をかけるアメリカに、つけ入るスキを与えず完勝した。

全日本は若きエース中山が8得点を上げる活躍を見せ、GK橋本もアメリカのパワフルなシュートを好守した。アメリカも長身選手をそろえパワーあふれるプレーを見せるものの、全日本のうまいゲーム運びに実力を十分に発揮することができなかった。

全日本の中山は、191cmの長身であるばかりでなく、シュートテクニックにも冴えを見せた。一方アメリカは長身選手が積極的にロングシュートをねらうものの、単調なシュートが多く、GK橋本を突破することができなかった。

（稲生　茂）

■日本対スウェーデン

最も新しい世界チャンピオンがやって来た。

今月の3月、チェコで行なわれた世界選手権で優勝。そのフルメンバーではないが、ナショナルチームであることは間違いない。

ソウル・オリンピックで圧倒的な強味を発揮したソ連チームをどのような策をもって倒したのか、その一端でも覗ければと非常に興味の持てる国際大会である。さて試合は、ジャパンカップ、ファイナル。観客も最終戦とあってスタンドはほぼ満員。美しい体育館で雰囲気も満足。

開始早々、互いに早い動きからロング・シュートの応酬が続いたが、ゴールキーパーの名守備によって一歩も譲らない。全日本は、ソウル・オリンピック代表、宮下、首藤、玉村らが、このような大事なゲームになるとそのキャリアを遺憾なく発揮する。宮下から玉村へ渡りカットインし、ループシュートを選んでまず1点。さらに斉藤へのポストインでPTを得、これを山村が決めて2対1とリード。

スウェーデンもさすがに攻撃は多彩で、特に蝶のように舞う小さなパターソンの動きが光る。リードマンとして展開を読みながら、巧みなパスを出し、時には垂直に高く跳びミドル・シュートを射つ。

世界の王者・スウェーデンを相手に大善戦

しかし、いまひとつコンビが合わない。ようやく前半も中盤に入ってオルソンの世界のシュートが炸裂し、速攻なども加えて初めてリードする。
　この間、スウェーデンは、サイドから逆スピンシュートやフェイントから独特のポストインなどを組み合せて攻撃を仕掛けるが、ミスが出て、得点につながらない。それに日本の橋本の守備が万全で、オルソンらの高い打点からスピードのある強烈なシュートをことごとく止めた。その安定した守備力は、日本にとって大きな力となっている。調子に乗った時の橋本の守備力は、おそらく世界でも屈指の名キーパーであることは間違いなかろう。その後、全日本の動きが目立って良くなる。甲斐のPTや玉村、宮下のスクリーンプレーで2点差とする。残り8分30秒、フローターから左サイドの酒巻に渡って同点。この酒巻は、全日本ではあまり目立つ存在ではないが、その安定したプレーは定評がある。特に速攻やサイドでの正確なシュートは、専門筋では高い評価を受けている。
　残り1分15秒、玉村がカットイン、それがPTとなり、これを甲斐が決めて13対11。このままつなぐことができれば後半が楽になる。しかし、スウェーデンは残り時間からして1点を返すことだけに集中、ゆっくりフォーメーションをつくり、残り14秒でもの凄いスカイプレーをしっかり決めて1点差に詰め寄り、予定通りの前半という感がした。
　後半に入ると、前半とガラリと気魄が違った。やはり世界チャンピオンのプライドが許さないのだろう。ベンチの焦りではないが、思わぬ全日本の善戦に、これは大変なことだと策を変え、気合を入れ直した様子がはっきりとわかる。
　しかし、波に乗った全日本は、スタファン、オルソンの高打点からのシュートを、またも名キーパー橋本が好守、競り合いながらの速攻を酒巻が好走し、そのまま一人速攻で17対15とし、世界の1位と互角の試合運びを続け、館内を大いに沸かせる。
　だが、スウェーデンも奮起、リードされると時をおかずしてすぐに追いつくさまは実に見事で、このあたりに違いが出る。さらに残り15分頃、小さなアンダーソンが大きなジャンプをしてポストイン、これが決まって2点差と広げた。この頃からスウェーデンペースとなり、ようやく選手達も楽に試合を運ぶようになってきた。
　その後も、得点を重ねるスウェーデンは、ロスの鮮かに決める逆スピンなどで5点差とし試合を決定した。全日本は、最後まで若い中山、斉藤らの頑張りで差を詰めるが、力及ばず、またしても世界の壁の厚さを知らされた。それにしても善戦だったと思う。これからの全日本の課題は、このような力を世界戦で十分に発揮することである。

★男子・第1戦★

【5月4日】

得	〈スウェーデン〉(審・島田)		〈アメリカ〉(審・後藤)	得
0	コルビック	GK	ハウテン	0
0	スベンソン	GK	ペック	0
1	ペルション	CP	ハードレ	2
0	ヘーディン	CP	イーストモン	1
1	ヨハンソン	CP	バテン	3
4	リンドグレン	CP	コッペルマン	0
2	ロート	CP	フィッチェン	2
3	バーナライネン	CP	ライアン	4
4	ショーブラード	CP	ケラー	1
1	J・オルソン	CP	ヒース	2
3	S・オルソン	CP	ジョンソン	2
6	アンダーション	CP	ウィスロー	1
		CP	オレクシク	2
		CP	マッパートランド	0
25(3)		PT		(1)20

★男子・第2戦★

【5月5日】

得	〈日本〉(審・ホフマン)		〈アメリカ〉(審・プラウゼ)	得
0	矢内	GK	ハウテン	0
0	橋本	GK	ペック	0
0	田口	CP	ハードレ	1
0	玉村	CP	フィッゲラルド	1
5	宮下	CP	イーストモン	1
0	長沢	CP	バテン	0
0	酒巻	CP	フィッチェン	5
2	河原	CP	ライアン	4
3	甲斐	CP	ケラー	1
2	山村	CP	ヒース	2
3	首藤	CP	ジョンソン	0
1	斉藤	CP	ウィスロー	1
0	武田	CP	オレクシク	1
8	中山	CP	マッパートランド	0
24(6)		PT		(2)17

★男子・第3戦★

【5月6日】

得	〈スウェーデン〉(審・ホフマン)		〈日本〉(審・プラウゼ)	得
0	ベストパル	GK	橋本	0
0	スベンソン	GK	秋吉	0
4	ショーブラード	C·P	田口	0
0	ヘーディン	C·P	玉村	5
1	ヨハンソン	C·P	宮下	3
5	リンドグレン	C·P	長沢	0
4	ロート	C·P	酒巻	4
3	バーナライネン	C·P	河原	0
0	カル	C·P	甲斐	2
0	ヴェーベーリ	C·P	山村	1
6	S・オルソン	C·P	首藤	2
2	アンダーション	C·P	斉藤	2
		C·P	魚住	0
		C·P	中山	4
25(1)		PT		(3)23

女子 ─ '90ジャパンカップ

▼第1戦（5月4日）
韓国 30（12－13、18－6）19 日本

▼第2戦（5月5日）
韓国 28（15－12、13－13）25 フランス

▼第3戦（5月6日）
フランス 25（16－9、9－13）22 日本

〔順位〕
①韓国（2勝）
②フランス（1勝1敗）
③日本（2敗）

■日本対韓国

立ち上がり、パスミスの目立つ日本に対し速攻とペナルティースローで得点を重ね、韓国はゲームの主導権を前半でつかんだ。後半、日本は、ペナルティースローで得点をあげ、好調なスタートをきった。しかし韓国は、GKの宋芝賢の好守により、日本の得点追加を阻止した。

その後、日本は速攻とポストシュートにより得点をあげたが、前半の得点差が大きくひびき、勝利には至らなかった。（氷海）

■日本対フランス

新生全日本はフランスに対して、韓国戦とは見違える好スタートを見せた。

試合開始13秒、ポイントゲッター武津のシュートが決まり波に乗った。フランスの巻き返しを図ったが、ゴールキーパー村山の巧守に阻まれ20分過ぎまでシーソーゲームが続いた。

その後全日本が4連続得点するなどして、前半を13対9とリードした。

後半に入るとフランスは攻守とも動きが良くなり、10分間に速攻を含め8連続得点するなどして試合の主導権を握った。

全日本も頑張りを見せ、残り6分で21対22と1点差に詰め寄った。しかし、フランスのポイントゲッター、ロカ・パスカルが1対1から個人技で2連続得点して試合に決着をつけた。

試合全体として、前半は全日本の、後半はフランスの良い面が発揮される試合となった。（平岡）

★女子・第1戦★

【5月4日】
〈韓国〉（審・プラウゼ）　〈日本〉（審・ホフマン）

得	韓国		日本	得
0	宋芝賢	GK	小口	0
0	張里羅	GK	村山	0
0	趙恩姫	GK		
2	朴正林	CP	武津	2
4	陳美淑	CP	江口	0
8	李美英	CP	西村	0
5	呉成玉	CP	松沢	0
2	白仁淑	CP	袰川	0
0	金兌英	CP	小池	3
2	姜善敬	CP	市来	1
0	李任淑	CP	上田	0
1	石旼熹	CP	比嘉	2
5	任美環	CP	日比野	3
1	孔珠	CP	竹吉	6
		CP	谷本	2
30（3）		PT		（2）19

★女子・第2戦★

【5月5日】
〈韓国〉（審・岡本）　〈フランス〉（審・清水）

得	韓国		フランス	得
0	宋芝賢	GK	ロアエク	0
0	張里羅	GK	プレ	0
0	趙恩姫	GK		
1	朴正林	CP	ロカ	6
2	陳美淑	CP	ドュグレイ	5
7	李美英	CP	クリュンボルツ	4
1	呉成玉	CP	デモクリット	0
1	白仁淑	CP	ブティノー	0
0	金兌英	CP	フィリップ	0
2	姜善敬	CP	ルーテル	3
0	李任淑	CP	ブイヨ	0
6	石旼熹	CP	マルシャン	5
7	任美環	CP	アレキサンドル	2
1	孔珠	CP	ソーバル	0
		CP	サルトリオ	0
28（4）		PT		25（1）

★女子・第3戦★

【5月6日】
〈フランス〉（審・上久保）　〈日本〉（審・北井）

得	フランス		日本	得
0	ロアエク	GK	増見	0
0	プレ	GK	村山	0
4	ロカ	CP	武津	4
1	ドュグレイ	CP	西村	0
3	クリュンボルツ	CP	松沢	0
1	デモクリット	CP	山之内	0
0	ブティノー	CP	袰川	1
0	フィリップ	CP	小池	3
5	ルーテル	CP	市来	3
1	ブイヨ	CP	上田	0
0	マルシャン	CP	比嘉	3
0	アレキサンドル	CP	日比野	3
3	ソーバル	CP	竹吉	3
7	サルトリオ	CP	谷本	2
25（6）		PT		（1）22

ジャパンカップを見て

谷戸　忠司（読売新聞運動部）

3年ぶりのジャパンカップが、ゴールデンウィーク中に東京で行われた。男子世界チャンピオンのスウェーデン、ソウル・オリンピック女子金メダルの韓国など、招待チームの豪華さに比べ、日本は男子が3月の世界選手権で16チーム中15位、女子もBグループの世界選手権で11位と低迷しているだけに、どのくらい注目されるかと心配だった。しかし、あるスポーツ紙は、初日に1ページを割いて報道したし、連日ゴール後方には、カメラの放列が敷かれた。やはり、国際試合ともなると、マスコミの関心も違ってくる。

試合結果については、別ページに譲るとして、今度の大会を通して見た、全日本男女チームの印象を述べてみたい。ともに、2年後のバルセロナ・オリンピックに向けた第一歩として、この大会を位置づけていた。だが、その成果を見ると、男子と女子とで大きく明暗を分けたといえそうだ。

まず男子。優勝をかけたスウェーデン戦は本来の動きがなく、課題の精神面の弱さを今回も露呈した形となったが、若きエースの中山剛（福岡大）を、多くのファンに強くアピールしたという点で、収穫があった。

中山については、これまで専門誌などで繰り返し報じられてきたし、先の世界選手権でチームトップの21得点を挙げたことも、よく知られている。しかし、首都圏に登場するのはこれが初めて。記者もこれまで、中山のプレーを見たことがなく、楽しみにしていた一人だった。

全日本男子の津川昭監督が、「待ちに待った新戦力」というのも、十分にうなづけた。1m91cmの長身。腕をしならせ、素早いモーションで放つロングシュートは見ごたえ十分。「世界選手権でも、中山のツボにはまったシュートが決まったときは、スタンドからウォーッというどよめきが起きた」ということだが、一人でも多くのスポーツファンを、ハンドボールに引きつけるためにも、スターの存在は欠かせない。その意味で、中山は、蒲生晴明以来、久し振りに男子にスターが誕生しそうな期待を抱かせてくれた。

これに対し、女子は悲しいかな、ますます世界への期待が遠くなっているという印象を受けた。初日の韓国戦、記者席から「これが全日本？」という、辛らつな声が出ていたが、確かにこれまでのナショナルチームに比べると、体の小さな選手が多く、プレーのスケールも小さくなってしまったようだ。

もちろん、体が大きければよいというものではない。緒方嗣雄監督も「スピードで勝負するチーム」を目指している。しかし、ロングシューターがいないのは戦力的に大きなマイナス。ベテランがそろって辞めたため、リーダーシップをとれる選手がいなくなり、戦況を読んだプレーができていない。強化委員会では、元全日本代表の復帰を含めた〝大砲導入〟に動くようだが、早急な対応が必要だろう。

運営にも苦言がある。これだけの大会なのに、余りにも客の入りが悪かった。ゴールデンウィークの、まっただ中での開催だったから、観客動員が困難だったことは理解できる。だが、スタンドがガラガラなのと、満員なのとでは、選手のヤル気も大きく違ってくる。ここは、日本協会により一層の努力をお願いしたい。

手段がないわけではない。ハンドボールをやっている中、高、大学生などを、もっと会場に呼ぶことだ。入場料金など取らなくてもいい。日本協会は、ジャパンカップのような大きな大会のスケジュールが決まったら、学連や高体連に連絡して、その期間中は試合等の予定を組まず、観戦にくるよう、積極的に働きかけて欲しい。

ジュニアにとっても、一流選手のプレーを見ることは勉強になる。超満員のスタンドに選手は発奮、底辺拡大にもプラス――。試して見る手はあるまいか。

第31回全日本実業団選手権大会（男子）

湧永製薬がV3

第31回全日本実業団選手権大会の男子は、5月18日から20日までの3日間、愛知県体育館で12チームが参加して開催された。

決勝戦は湧永製薬と本田技研鈴鹿の顔合せとなったが、湧永が終始優勢に展開、大差で本田技研鈴鹿を下して3年連続9回目の優勝を飾った。

〔順位〕①湧永製薬②本田技研鈴鹿③大崎電気④大同特殊鋼⑤三陽商会⑥日新製鋼⑦中村荷役⑧トヨタ車体⑨本田技研熊本⑩トヨタ自動車⑪三景⑫竹芝精巧

▼1回戦

トヨタ車体 20（9－10／11－6）**16 竹芝精巧**

〔戦評〕前半立ち上がりより、竹芝・馬場の連続得点に加え、単発攻めの車体を好守し竹芝ムードで前半中盤まで進んだ。開始15分経過頃から徐々に車体の攻撃にリズムが出始め、1点差で折り返す。

後半に入っても、車体長野のミドル、河合の速攻がよく決まり逆転、その後も着実なプレーでリードを広げ勝利を納めた。

得	〔竹芝〕		〔車体〕	得
0	桜井	GK	宮田	0
		GK	工藤	0
4	中間	FP	吉続	4
0	寺谷	FP	君島	2
1	桐木	FP	赤星	2
3	馬場	FP	崎野	0
1	三本	FP	河合	6
0	三橋	FP	寺嶋	0
0	坂元	FP	中山	1
4	野崎	FP	寺沢	0
3	吉川	FP	長野	5
0	長野	FP	山田	0
16	(2)	PT	(0)	20

（審・小林、宮沢）

日新製鋼 32（15－10／17－11）**21 三景**

〔戦評〕前半立ち上がり、日新は各ポジションよりシュートを決め6対2とリードしたが、三景は金井の連続ゴールなどで追い上げ、9対9と振り出しに戻した。日新は退場者を出しながらもよく守り、前半を15対10と日新リードで終えた。後半に入り、三景は巻き返しを図ろうとするが、日新の速攻、ロング、サイドと多彩な攻撃を守りきれず、日新が勝利を納めた。

得	〔三景〕		〔日新〕	得
0	中村	GK	谷	0
0	石井	GK	宇田川	0
4	斉藤	FP	堀田	2
2	高橋	FP	武田	3
6	金井	FP	西山	0
2	清田	FP	高木	6
1	小金山	FP	甲斐	7
0	木原	FP	木村	4
0	高橋	FP	池田	2
0	吉野	FP	藤本	3
6	近藤	FP	坂口	3
0	福士	FP	野中	2
21	(1)	PT	(2)	32

（審・浜田、小笠原）

三陽商会 26（13－7／13－8）**15 本田技研熊本**

〔戦評〕前半立ち上がりは、三陽と本田の差はなかったが、時間がたつにつれて三陽のムードになり、連続得点をあげ三陽6点リードで前半を終了した。

後半立ち上がり、本田のムードだったが、途中から三陽が速攻、ミドルシュートで得点を重ねそのまま勝利を納めた。

得	〔本田〕		〔三陽〕	得
0	宮本	GK	宇田川	0
0	中尾	GK	高橋	0
0	矢野	FP	浜川	6
0	荒田	FP	飯島	1
2	三代	FP	小河原	5
3	松村	FP	大坪	2
1	田中	FP	渡辺	0
0	山口	FP	佐藤	1
5	田中	FP	浜田	3
0	堀内	FP	田中	8
3	寺島	FP	吉原	0
1	大中	FP	近藤	0
15	(1)	PT	(2)	26

（審・夏目、松ヶ谷）

中村荷役 31（13－8／18－15）**23 トヨタ自動車**

〔戦評〕前半立ち上がりは一進一退、中盤中村・下戸成の速攻からリズムをつかんだ中村が高木のシュートやトヨタのサイドからの攻撃を好守しリードを広げた。

後半、トヨタGK・富森の好守や川田のミドルで追い上げたが、中村・田口のミドル、雨宮のミドルでリードを広げて勝利を納めた。

得	〔自動車〕		〔荷役〕	得
0	西井	GK	石井	0
0	富森	GK	井上	0
4	香井	FP	田口	4
8	川田	FP	塚田	2
0	酒井	FP	三幸	1
2	田村	FP	朴	4
2	松尾	FP	雨宮	8
3	石本	FP	下戸成	5
0	村上	FP	元島	1
4	杉元	FP	高木	6
0	堀江	FP	呉	0
0	野々	FP	田中	0
23	(3)	PT	(3)	31

（審・日比、玉田）

▼2回戦

大崎電気 24（12－9／12－12）**21 日新製鋼**

〔戦評〕前半立ち上がり、日新が野中、木村の連続シュートで3対0とリードしたが、5分過ぎから大崎もリズムを取り戻し15分過ぎには同点に追いついた。その後両チームとも1点を取り合う好ゲームとなったが、20分過ぎに大崎・武田のシュートなどで点差をつけ12対9で前半を折り返した。

後半に入ると、大崎が一気にペースをつかみ、点差を広げ余裕を持ったゲーム展開をした。中盤、日新・宇田川の好守により点差は開かなかったが、大崎の実力が勝った試合であった。

得	〔日新〕		〔大崎〕	得
0	谷	GK	渡辺	0
0	宇田川	GK	矢内	0
0	堀田	FP	大橋	0
3	武田	FP	大和田	2
0	西山	FP	武田	2
1	高木	FP	首藤	2
3	甲斐	FP	中田	4
2	藤井	FP	魚住	0
5	木村	FP	甲斐	1
3	藤本	FP	菅田	0
0	坂口	FP	相馬	8
4	野中	FP	宮下	5
21	(0)	PT	(1)	24

（審・夏目、松ヶ谷）

湧永製薬 41（20－7／21－2）**9 トヨタ車体**

〔戦評〕前半から湧永は酒巻、玉村などの得点で波に乗り、中盤長沢の連続得点で完全にペースをつかんだ。車体も長野の速攻などで点を重ねるが、今ひとつペースをつかめず前半が終了した。

後半に入ると、完全に湧永のペースになり自由自在の速攻で車体を突き離し、完全なワンサイドゲームになってしまった。

得	〔車体〕		〔湧永〕	得
0	宮田	GK	徐	0
0	工藤	GK	多田	0
2	吉続	FP	酒巻	6
1	君島	FP	河原	6
0	赤星	FP	玉村	4
0	崎野	FP	堀田	4
0	河合	FP	中川	4
0	寺嶋	FP	長沢	8
0	中山	FP	荷川取	0
0	寺沢	FP	鎌塚	3
5	長野	FP	奥田	2
1	山田	FP	松本	4
9	(1)	PT	(1)	41

（審・小山、佐路）

大同特殊鋼 26（11－8／15－12）**20 三陽商会**

〔戦評〕前半立ち上がり、大同・佐藤のシュートで始まり、前半18分4対4と両チーム乗り切れず低スコアのゲームとなるが、三陽に退場者が出て3点差となり大同も勢いに乗ると思われたが、三陽GK高橋の好キープも光り前半を11対8と大同リードで折り返した。

後半開始10分までは、一進一退

の攻防が続いたが、10分以降大同GK秋吉の好守から速攻が決まりだし、大同が逃げ切った。

得	〔大同〕		〔三陽〕	得
0	秋吉	GK	宇田川	0
0	林		高橋	0
4	田中	FP	浜川	2
7	高村		飯島	0
3	朝生		小河原	2
1	畑	（審・宮沢 小林）	大坪	1
1	明石		渡辺	2
1	名取		佐藤	0
2	植木		浜田	5
3	末岡		田中	7
4	佐藤		吉原	0
0	阿萬		近藤	1
26	(2)	PT	(1)	20

本田技研鈴鹿 24（12－11、12－8）19 中村荷役

〔戦評〕前半立ち上がりは、両チームともに速攻の攻撃が続いた。前半なかば過ぎになると、中村荷役がシュートミスなどで鈴鹿に連続得点を入れられて前半を4点差で折り返す。

後半に入って鈴鹿の速攻、中村荷役の速攻で点を重ねて、前半の4点差がそのまま後半で追いつかず鈴鹿の勝利。

得	〔本田〕		〔荷役〕	得
0	高木	GK	石井	0
0	橋本		井上	0
0	真砂	FP	田口	1
3	立木		塚田	0
2	福村		三幸	0
3	内藤	（審・浜田 小笠原）	朴	2
2	大塚		雨宮	7
3	梅基		下戸成	6
2	田口		元島	1
3	平松		高木	1
0	山本		呉	1
6	山村		田中	0
24	(4)	PT	(3)	19

▼9～12位決定1回戦

本田技研熊本 24（12－12、12－8）20 竹芝精巧

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともミスが目立ち得点があげられなかったが、5分過ぎから熊本が松村を中心にペースをつかみ得点を重ねていった。熊本GK宮本の好守によりなかなか得点できなかった竹芝であったが、15分過ぎから中間、桐木のシュートなどで追いあげ、12対8熊本リードで前半を折り返した。

後半に入ると、熊本・松村、竹芝・中間の打ち合いになり接戦をしたが、前半の点差を熊本が守った試合になった。竹芝としては前半立ち上がりのミスが最後まで尾を引いた試合であった。

得	〔本田〕		〔竹芝〕	得
0	宮本	GK	小幡	0
0	中尾		桜井	0
0	矢野	FP	中間	7
0	荒田		桐木	7
2	三代		馬場	1
10	松村	（審・日比 玉田）	三本	0
1	田中		坂元	0
1	山口		野崎	2
1	堀内		吉川	3
7	田中		土肥	0
2	寺島		長野	0
0	大中		森口	0
24	(2)	PT	(1)	20

トヨタ自動車 21（11－7、9－13）20 三景

〔戦評〕三景は立ち上がりからリズムよく金井、高橋の連続シュートにより先行した。自動車も川田を中心に攻めたが、三景GK・石井の好守もあり、なかなかリズムをつかむことができなかった。

後半に入ると、三景に前半のリズムがなくなり自動車にリズムがでてきたが、退場者が多くなかなか追いつかなかった。後半18分香井のシュートで追いつき、田村のシュートで逆転し、守ってはGK冨森の再三にわたる好守により勝利を納めた。三景にとっては前半のリズムが後半に入って完全にくずれてしまったことが惜まれる試合であった。

得	〔自動車〕		〔三景〕	得
0	西井	GK	中村	0
0	富森		石井	0
4	香井	FP	斉藤	6
8	川田		高橋	5
3	酒井		金井	7
1	田村	（審・宮沢 小林）	清田	0
0	松尾		小金山	0
1	石本		木原	0
0	村上		高橋	0
3	杉元		吉野	0
1	堀江		近藤	2
0	野々		福士	0
21	(2)	PT	(3)	20

▼5～8位決定1回戦

三陽商会 23（13－6、10－8）14 トヨタ車体

〔戦評〕立ち上がり車体がテンポよく得点したが、三陽が途中からリズムを取り戻し、前半は2点で折り返した。

後半に入り、車体がパスミス、シュートミスなどで集中力を欠き、また、三陽商会の早めの当りに得点できず、点差が大きく開いてしまった。

得	〔三陽〕		〔車体〕	得
0	吉田	GK	宮田	0
1	高橋		工藤	0
1	浜川	FP	吉続	3
3	飯島		君島	4
2	小河原		赤星	0
1	大坪	（審・日比 玉田）	崎野	0
6	渡辺		河合	4
2	佐藤		寺嶋	0
3	浜田		中山	2
3	田中		寺沢	0
0	吉原		長野	1
1	近藤		山田	0
23	(1)	PT	(0)	14

日新製鋼 25（14－11、11－12）23 中村荷役

〔戦評〕前半はお互いのチームが好守をみせて接戦となった。特に中村GK石井と日新GK宇田川の好守が目につき、12対11の1点差で前半中村のリードで終了。

後半、日新・坂口の連続得点で逆転、後半はお互いのチームともに退場者が続出したが点差は開かず、2点リードのまま日新の勝利となった。

得	〔日新〕		〔荷役〕	得
0	谷	GK	石井	0
0	宇田川		井上	0
2	堀田	FP	田口	1
3	武田		塚田	0
1	西山		三幸	0
4	高木	（審・小山 佐路）	朴	8
3	甲斐		雨宮	7
1	藤井		下戸成	2
3	木村		元島	0
3	藤本		高木	1
4	坂口		呉	4
1	野中		田中	0
25	(3)	PT	(1)	23

▼準決勝

湧永製薬 34（16－11、18－11）22 大崎電気

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも熱の入ったプレーで、大崎は首藤のミドル、ポストで得点を重ね

る。一方湧永は、GK徐の好守からの速攻や荷川取のポストプレーで得点するといった攻防が続いた。湧永のデイフェンスの壁は厚く、大崎は攻撃が単調になりミスがでて連続得点され、前半7点のアヘッドを負う事になった。

後半に入っても終始湧永のペースで試合は進み、12点という大差で湧永の勝利に終った。

	大崎	得	湧永	得
GK	渡辺	0	徐	0
	矢内	0	井藤	0
FP	大橋	0	酒巻	8
	大和田	0	河原	4
	武田	3	玉村	2
	首藤	6	堀田	5
	中田	2	中川	0
	魚住	0	長沢	3
	菅田	3	荷川取	6
	相馬	5	鎌塚	1
	宮下	3	奥田	4
	土屋	0	松本	1
PT	(2)	22	(0)	34

（審・夏目、松ヶ谷）

本田技研鈴鹿 25（13－14 / 12－10）24 大同特殊鋼

〔戦評〕前半開始早々、大同は田中のサイドシュートが決まり一気にスパートし、前半10分の時点で6点差までついた。しかし、20分過ぎからは鈴鹿・山村を中心とする速攻陣の餌食となり、前半は14対13の大同1点リードで終った。

後半は一進一退を繰り返したが10分過ぎに鈴鹿が山村のシュートなどで連続得点し、3点差をつけたが、逆に20分過ぎに大同が連続得点し同点に追いついた。その後は鈴鹿が先行する展開となり、残り3秒で大同がフリースローを得たが、高村がシュートをはずしゲームセットとなった。

	大同	得	本田	得
GK	秋吉	0	高木	0
	林	0	橋本	0
FP	田中	7	真砂	2
	高村	4	立木	2
	朝生	1	福村	0
	畑	0	内藤	1
	明石	0	大塚	0
	名取	1	梅基	3
	植木	1	田口	8
	末岡	4	平松	0
	佐藤	6	山本	0
	阿萬	0	山村	9
PT	(1)	24	(2)	25

（審・浜田、小笠原）

▼11位決定戦

三景 19（11－5 / 8－8）13 竹芝精巧

〔戦評〕立ち上がりから、シュートミスの多い竹芝はペナルティーで中間が5点目を決めるが前半から大きくリードされた。

後半は動きが両チームとも激しくなったが、ミスも多く雑なプレーが続き得点の少ないゲームであった。

	竹芝	得	三景	得
GK	小幡	0	中村	0
	桜井	1	石井	0
FP	中間	3	斉藤	6
	桐木	2	高橋	4
	馬場	1	金井	3
	三本	1	清田	3
	三橋	0	小金山	0
	坂元	0	木原	0
	野崎	3	高橋	1
	吉川	2	吉野	0
	長野	0	近藤	2
	森口	0	福士	0
PT	(4)	13	(2)	19

（審・小山、佐路）

▼9位決定戦

本田技研熊本 30（13－8 / 17－13）21 トヨタ自動車

〔戦評〕前半はミスの少なかった熊本が、5点リードで折り返した。

後半、開始早々トヨタが素晴らしい集中力で差を縮めたが、10分を過ぎて攻撃が単調になり、逆に右サイドの速攻が速かった本田がたて続けに得点をあげ、以後そのペースは変わらず本田が快勝した。

	自動車	得	本田	得
GK	西井	0	宮本	0
	富森	0	中尾	0
FP	香井	7	矢野	0
	川田	6	荒田	0
	酒井	1	三代	3
	田村	3	松村	2
	松尾	0	田中	4
	石本	1	山口	2
	村上	0	村田	0
	杉元	3	田中	12
	野々	0	寺島	4
	光田	0	大中	3
PT	(2)	21	(5)	30

（審・浜田、小笠原）

▼7位決定戦

中村荷役 20（9－11 / 11－8）19 トヨタ車体

〔戦評〕前半は車体GK宮田、中村GK石井が好調で一進一退の内容で11対9車体リードで前半終了。

後半開始車体は中村の高いディフェンスを攻めあぐみ、田中、栗原らのシュートがよく決まり16対13と逆転。終了間際に車体も長野、君島のシュートで粘ばり追り上げたが、1点差で中村が逆転勝利を納めた。

	車体	得	荷役	得
GK	宮田	0	石井	0
	工藤	0	井上	0
FP	吉続	3	田口	5
	君島	6	三幸	2
	赤星	0	朴	1
	崎野	0	雨宮	5
	河合	3	元島	0
	寺嶋	0	高木	1
	中山	2	岩戸	0
	平野	0	呉	3
	長野	5	栗原	1
	山田	0	田中	2
PT	(1)	19	(2)	20

（審・小山、佐路）

▼5位決定戦

三陽商会 18（8－6 / 10－7）13 日新製鋼

〔戦評〕前半、ディフェンスの早いつめと両GKの好守により、三陽8点、日新6点とともに点数のあまり入らない試合展開となった。

後半開始直後、日新・高木の高い打点からのロングシュートが決まり、追い上げが見られたが、三陽は開始10分前後に渡辺の速攻による連続得点、ポストプレーにより5点差とし試合を決めた。

	日新	得	三陽	得
GK	谷	0	宇田川	0
	宇田川	0	高橋	0
FP	堀田	0	浜川	5
	武田	0	飯島	0
	高木	4	小河原	1
	甲斐	1	大坪	1
	藤井	0	渡辺	4
	木村	1	佐藤	0
	池田	0	浜田	3
	藤本	4	田中	4
	坂口	0	吉原	0
	野中	3	近藤	0
PT	(1)	13	(2)	18

（審・夏目、松ヶ谷）

▼3位決定戦

大崎電気 21（11－14 / 10－4）18 大同特殊鋼

〔戦評〕白熱した好ゲームであったが、大崎が後半武田の4得点などで逆転した。大同は前半のリードを守ることができなかったが今後の活躍が期待される。

	大同	得	大崎	得
GK	秋吉	0	渡辺	0
	林	0	矢内	0
FP	田中	3	大崎	1
	高村	5	武田	4
	朝生	2	首藤	4
	畑	0	中田	3
	明石	1	魚住	1
	名取	0	菅田	1
	植木	0	山内	0
	末岡	7	相馬	3
	佐藤	0	宮下	3
	阿萬	0	土屋	1
PT	(1)	18	(2)	21

（審・夏目、松ヶ谷）

▼決勝

湧永製薬 34（13－5 / 21－10）15 本田技研鈴鹿

〔戦評〕湧永が好調な立ち上がりを見せ、エース玉村、荷川取のシュートなどで得点、10分には4対1とリードを奪う。本田技研鈴鹿は動きが固く、攻撃のリズムがかみ合わず、前半わずか5得点しかあげられず、13対5と前半で大きくリードを奪われてしまった。

後半に入っても流れは変わらず湧永は長沢、酒巻らが着々と得点、リードを大きく広げる一方で、早々に勝負を決定づけた。

	本田	得	湧永	得
GK	高木	0	徐	0
	橋本	0	井藤	0
FP	真砂	0	酒巻	4
	立木	4	河原	5
	福村	3	玉村	6
	内藤	1	堀田	2
	大塚	1	中川	0
	梅基	0	長沢	6
	田口	2	荷川取	4
	平松	1	鎌塚	4
	山本	1	奥田	0
	山村	2	松本	3
PT	(2)	15	(2)	34

（審・浜田、小笠原）

第31回全日本実業団選手権大会（女子）

大崎電気が四連覇を飾る

第31回全日本実業団選手権大会の女子は、5月18日から20日までの3日間、大阪・堺市立金岡公園体育館で12チームが参加して開催された。

非常に安定した強さを見せた大崎電気が、決勝でシャトレーゼを破り、4年連続7回目の優勝を飾った。

〔順位〕①大崎電気②シャトレーゼ③北国銀行④大和銀行⑤プラザー工業⑥オムロン⑦ジャスコ⑧日本ビクター⑨日立栃木⑩ソニー国分⑪ムネカタ⑫JUKI

▼1回戦

プラザー工業 24（11－6、13－5）11 JUKI

北国銀行 29（14－8、15－3）11 ムネカタ

▼2回戦

ジャスコ 23（1－2、4－2、9－8、9－10）22 日立栃木

大和銀行 15（9－4、6－7）11 ソニー国分

大崎電気 19（13－7、6－9）16 プラザー工業

北国銀行 21（10－4、11－10）14 オムロン

シャトレーゼ 26（13－9、13－13）22 ジャスコ

大和銀行 14（7－5、7－5）10 日本ビクター

▼9～12位決定1回戦

日立栃木 25（12－6、13－4）10 JUKI

ソニー国分 24（14－10、10－6）16 ムネカタ

▼5～8位決定1回戦

プラザー工業 23（3－1、2－0、8－8、10－10）19 ジャスコ

オムロン 22（11－9、11－11）20 日本ビクター

得	〔ブ工〕		〔JUKI〕	得
0	岡本	GK	大角	0
0	西住	GK	久保	0
3	荒木	FP	石塚	2
3	末永	FP	許田	1
0	坂倉	FP	上田	3
8	藤江	FP	樋口	3
0	松尾	FP	田中	0
7	進藤	FP	飯田	0
1	野田	FP	武藤	0
2	甲斐	FP	熊谷	2
0	高木	FP	羽田	0
0	田中	FP	田中	0
24	(3)	PT	(2)	11

（審・清水・秋永）

得	〔北国〕		〔ムネ〕	得
0	木戸	GK	我妻	0
0	岩井	GK	佐々木	0
5	上田	FP	太田	0
1	矢野	FP	川名	0
2	丹後	FP	皆川	6
4	松田	FP	上遠野	0
1	塙	FP	桜井	3
0	北川	FP	高橋	1
4	金	FP	管野	1
7	森	FP	遠藤	0
1	松下	FP	山崎	0
4	呉	FP	庄子	0
29	(5)	PT	(0)	11

（審・丸谷・奥田）

得	〔ジャス〕		〔日立〕	得
0	小林	GK	梅津	0
0	松田	GK	阿部	0
4	今井	FP	吉鶴	0
3	東出	FP	神永	0
2	勝島	FP	神長	0
4	稲田	FP	柳田	0
1	山田	FP	飯塚	12
8	川井	FP	尾苗	2
0	小沼	FP	市来	2
0	徳永	FP	岡田	3
0	西本	FP	石毛	2
1	土師	FP	新井	1
23	(2)	PT	(0)	22

（審・島崎・中本）

得	〔大和〕		〔ソニー〕	得
0	増見	GK	満留	0
0	岡田	GK	古賀	0
2	小池	FP	藤元	5
5	瀬川	FP	平山	0
0	袰川	FP	白石	0
4	松田	FP	林	3
3	藤本	FP	大住	0
0	日野	FP	東郷	2
0	越智	FP	山口	1
0	木瀬	FP	安山	0
0	中東	FP	飯	0
1	又吉	FP	大城	0
15	(2)	PT	(3)	11

（審・北山・馬場）

得	〔大崎〕		〔ブ工〕	得
0	南雲	GK	岡本	0
0	宗片	GK	西住	0
0	藤井	FP	荒木	6
2	前川	FP	末永	1
2	梅原	FP	坂倉	0
4	江口	FP	藤江	3
1	野田	FP	松尾	0
5	金	FP	進藤	3
4	尹	FP	野田	1
1	伝法谷	FP	甲斐	2
0	冨田	FP	高木	0
0	酒井	FP	田中	0
19	(2)	PT	(4)	16

（審・佐谷・村尾）

得	〔北国〕		〔オム〕	得
0	木戸	GK	前川	0
0	岩井	GK	川島	0
0	上田	FP	横田	1
2	矢野	FP	中山	2
2	丹後	FP	武津	4
2	松田	FP	毛利	0
1	宮本	FP	西村	1
4	北川	FP	橋本	1
7	金	FP	斉藤	3
0	森	FP	石村	0
0	谷本	FP	比嘉	2
3	呉	FP	吉田	0
21	(1)	PT	(0)	14

（審・北山・馬場）

得	〔シャト〕		〔ジャス〕	得
0	工藤	GK	小林	0
0	丸山	GK	松田	0
1	小松	FP	今井	5
2	島崎	FP	東出	2
10	海道	FP	勝島	4
0	松沢	FP	稲田	1
1	小林	FP	山田	9
6	小野寺	FP	川井	1
0	生方	FP	小沼	0
3	鶴田	FP	徳永	0
0	野沢	FP	西本	0
0	小俣	FP	土師	0
26	(3)	PT	(2)	22

（審・島崎・中本）

得	〔大和〕		〔日ビ〕	得
0	増見	GK	小口	0
0	岡田	GK	山田	0
5	小池	FP	太田	4
1	瀬川	FP	工藤	2
1	袰川	FP	永岡	0
3	松田	FP	中村	1
1	藤本	FP	山之内	3
1	木瀬	FP	小松	0
0	中東	FP	伊藤	0
2	山尾	FP	吉田	0
0	西口	FP	平松	0
0	又吉	FP		
14	(1)	PT	(2)	10

（審・奥田・丸谷）

▼準決勝

大崎電気 38 (18―18, 20―13) 31 北国銀行

シャトレーゼ 33 (16―9, 17―5) 14 大和銀行

得	〔日立〕		〔JUKI〕	得
0	梅津	GK	大角	0
			久保	0
1	吉鶴		石塚	2
0	神永	FP	許田	0
5	柳田		上田	4
3	飯塚	（審・	樋口	1
3	尾苗		飯田	0
4	市来	村佐	武藤	0
1	岡田		熊谷	1
0	石毛	尾谷）	羽田	1
6	新井		平山	0
2	堤		山口	0
25	(2)	PT	(1)	10

得	〔ソニー〕		〔ムネ〕	得
0	満留	GK	我妻	0
0	古賀		佐々木	0
8	藤元		太田	0
0	平山	FP	川名	0
0	白石		皆川	5
1	林	（審・	上遠野	3
4	大住		桜井	7
3	東郷	丸奥	高橋	0
2	山口		管野	1
1	安山	谷田）	遠藤	0
5	飯		山崎	0
0	大城		庄子	0
24	(7)	PT	(0)	16

得	〔ブ工〕		〔ジャス〕	得
0	岡本	GK	小林	0
0	西住		松田	0
4	荒木		今井	4
4	末永	FP	東出	2
0	坂倉		稲田	1
5	藤江	（審・	山田	5
0	松尾		川井	3
2	進藤	村佐	小沼	1
3	野田		大塚	0
5	甲斐	尾谷）	徳永	1
0	高木		西本	2
0	田中		土師	0
23	(3)	PT	(3)	19

▼11位決定戦

ムネカタ 20 (11―8, 9―6) 14 JUKI

▼9位決定戦

日立栃木 23 (10―7, 13―8) 15 ソニー国分

得	〔オム〕		〔日ビ〕	得
0	前川	GK	小口	0
0	川島		山田	0
0	横田		太田	3
9	中山	FP	工藤	6
0	武津		永岡	2
0	毛利	（審・	中村	2
3	西村		山之内	6
3	橋本	清秋	小松	1
1	斉藤		伊藤	0
0	上田	水永）	吉田	0
1	石村		平松	0
5	比嘉			
22	(3)	PT	(3)	20

得	〔大崎〕		〔北国〕	得
0	南雲	GK	木戸	0
0	宗片		岩井	0
3	藤井		上田	3
1	前川	FP	矢野	2
3	梅原		丹後	0
4	江口	（審・	松田	8
1	野田		宮本	0
12	金	中島	北川	2
10	尹		金	8
4	伝法谷	本崎）	森	0
0	冨田		谷本	2
0	酒井		呉	6
38	(4)	PT	(0)	31

得	〔シャト〕		〔大和〕	得
0	工藤	GK	増見	0
0	丸山		岡田	0
2	小松		小池	4
5	島崎	FP	瀬川	0
6	海道		袰川	2
9	松沢	（審・	松田	1
0	小林		藤本	0
4	小野寺	馬北	木瀬	1
1	合田		中東	0
1	生方	場山）	山尾	2
0	鶴田		西口	1
5	小俣		又吉	3
33	(7)	PT	(1)	14

▼7位決定戦

ジャスコ 16 (8―9, 8―5) 14 日本ビクター

▼5位決定戦

ブラザー工業 18 (10―7, 8―9) 16 オムロン

得	〔ムネ〕		〔JUKI〕	得
0	我妻	GK	大角	0
0	佐々木		久保	0
3	太田		石塚	7
5	川名	FP	許田	2
6	皆川		上田	2
3	上遠野	（審・	樋口	1
2	桜井		高塚	0
0	高橋	秋清	飯田	0
1	管野		武藤	2
0	遠藤	永水）	熊谷	0
0	山崎		羽田	0
0	庄子		山口	0
20	(3)	PT	(0)	14

得	〔日立〕		〔ソニー〕	得
0	梅津	GK	満留	0
			古賀	0
1	吉鶴		藤元	5
0	神永	FP	平山	1
0	神長		白石	1
3	柳田	（審・	林	1
3	飯塚		大住	0
3	尾苗	村佐	東郷	2
5	市来		山口	3
1	岡田	尾谷）	安山	0
0	石毛		飯	2
7	新井		大城	0
23	(4)	PT	(4)	15

得	〔ジャス〕		〔日ビ〕	得
0	小林	GK	小口	0
0	松田		山田	0
3	今井		太田	4
2	東出	FP	工藤	1
1	稲田		永岡	1
5	山田	（審・	中村	3
2	川井		山之内	4
1	小沼	秋清	小松	0
0	大塚		伊藤	0
1	徳永	永水）	平松	1
1	西本			
0	土師			
16	(5)	PT	(5)	14

▼3位決定戦

北国銀行 34 (19―9, 15―9) 18 大和銀行

▼決勝

大崎電気 29 (12―12, 17―13) 25 シャトレーゼ

得	〔ブ工〕		〔オム〕	得
0	岡本	GK	前川	0
0	西住		川島	0
4	荒木		横田	0
1	末永	FP	中山	7
0	板倉		武津	0
1	藤江	（審・	毛利	0
0	松尾		西村	1
2	進藤	村佐	橋本	0
5	野田		斉藤	0
5	甲斐	尾谷）	上田	0
0	高木		石村	1
0	田中		比嘉	7
18	(3)	PT	(4)	16

得	〔北国〕		〔大和〕	得
0	木戸	GK	増見	0
0	岩井		岡田	0
3	上田		小池	6
2	矢野	FP	瀬川	3
5	松田		袰川	3
1	宮本	（審・	松田	1
3	北川		藤本	1
4	金	馬北	日野	1
7	森		越智	0
5	松下	場山）	木瀬	1
2	谷本		中東	1
2	呉		又吉	1
34	(6)	PT	(1)	18

得	〔大崎〕		〔シャト〕	得
0	南雲	GK	工藤	0
0	宗片		丸山	0
0	藤井		小松	2
0	前川	FP	島崎	0
6	梅原		海道	9
1	江口	（審・	松沢	2
0	野田		小林	0
12	金	中島	小野寺	8
9	尹		合田	1
1	伝法谷	本崎）	鶴田	0
0	冨田		野沢	0
0	酒井		小俣	3
29	(1)	PT	(3)	25

アドヴァンテージルールについて

ヴァシレ・シデア（ルーマニア）
IHF／PRC理事

レフェリーの審判活動を評価査定することについての、その基準となるものは、試合中アドヴァンテージルールをいかに効果的に用いるかということである。このため、レフェリー観察用紙2に記載されているアドヴァンテージルール適用についての評価は、段階的罰則適用とか攻撃側プレイヤーの反則判定と同等の比重を持つものである。

アドヴァンテージルールを適用する上での、レフェリーのやり方は、彼をトップレフェリーに数えて良いかどうかを判定する上で好個の目安ともなるものであり、このことは、とりもなおさず事実現象に基づくものであり、レフェリーの持つ経験だけでなく、ハンドボールそのものの戦術技術についての基本的知識が前提となっていなければならない。

レフェリーはハンドボールの基本ルールを学ぶと同時に、このアドヴァンテージルールの適用感覚も習熟すべきである。このことは、レフェリーとして、その技術の上手下手とは別に、常に不可分必修のことととして念頭におくべきである。

現在出されている研究報告について、我々は、それらの疑問に答えると同時に、その問題点を明らかにしたいと考えている。我々はここで、アドヴァンテージルールの正しい適用についての原則と、その内容の詳細にわたる説明を目的としている。

アドヴァンテージルール適用の意義

ルール13―6、14―9には、アドヴァンテージルールの正しい適用について明示されている。それらを以下にあげてみる。

・レフェリーは、攻撃側が不利となってしまうような場合は、防御側が反則をおかしても、フリースロー（またはクリアーブルチャンスであれば7ｍスロー）と判定すべきではない。同様に、攻撃側の反則（オーバーステップ、エリア内侵入、キック、チャージングなど）が起こっても、それが防御側にとって、ボールを得ることになれば、フリースロー判定で試合が中断後の再開となる状態は、防御側にとって不利な状態を招くことになるので、攻撃側の反則は黙殺して良いということになる。

・何らかの反則によって、攻撃側が不利な状態になり、結果的にボール保持を失うこととなれば、最少限、フリースロー（またはペナルティスロー）が与えられるべきである。この最少限という言葉の意味は、その時の反則動作が、段階的な罰則の適用対象である場合は、フリースローまたはペナルティスロー判定にとどめることなく、相当の罰則を追加適用することを表わしている。

・攻撃側プレイヤーが反則されていても、そのプレイヤーがボールと身体を完全にコントロールできる状態、またはチームがルールに適応したプレー状態であれば、フリースローやペナルティスローを判定すべきではない。

アドヴァンテージルールをどのように適用するか

・反則が起こっても、レフェリーは即座に笛を吹くのではなく、その後の数秒間で反則をおかしていないチームが有利になるか不利になるかを見届けるべきである。

・もし反則が起こっていても、試合が反則をおかしていないチームに有利に展開すると見れば、そのまま続行させるべきであり、他方レフェリーがそのアドヴァンテージ性を認めるに至らないと判断すれば、試合をとめて最少限フリースロー（またはペナルティスロー）を与えるようにすべきである。

・段階的に罰則の適用を可とする反則（8―13）または非スポーツ的行為（8―13、14、17―11）が起これば、レフェリーは直ちにフリースローまたはペナルティスローを吹笛して後か、またはそれがアドヴァンテージルール適用状態であれば、その一連のプレー行動が終わった後に相当する罰則を下すようにする。

アドヴァンテージルールの適用についての適切なタイミング

・アドヴァンテージルールは、攻撃側の反則行動に関連して防御側がボールを自チームのものとした時に適用すべきである。

・レフェリーは、防御側がボールをとろうと相手と競り合った状態におかす反則については、常にアドヴァンテージルール適用を心がけるようにしなければならない。

・相手に対する動作と非スポーツ的行為での段階的罰則適用の場合、この状態の直後にクリアゴールチャンスにつながると見れば、アドヴァンテージルールを適用すべきであり、逆にそうならないと見れば、試合をとめてフリースローまたはペナルティスローおよびその他の相当罰を下すようにすべきである。

アドヴァンテージルール適用時に起こりやすいあやまち

アドヴァンテージルール適用の際、前述の諸原則を無視することなく、ごく普通に起こされるミスとしては、次のようなことがあげられる。

・攻撃側がまだ有利にプレーを続行可能であるにもかかわらず、レフェリーが試合をとめてフリースローにしてしまうことにより反則をした方のチームを有利にしてしまう。

• 攻撃側がルール通りにゴールを成功させたにもかかわらず、防御側の反則があったとして、ペナルティスローの判定を下してしまい、反則したチームを有利に扱ってしまう（そのペナルティスローが不成功となることあり）。

• 攻撃側の反則があったにもかかわらず、その流れの中で防御側はボールを得るにいたったが、レフェリーは試合をとめてフリースローにしてしまった。このことで、防御側が当然直ちに速攻に移行する可能性が消失してしまい、反則したチーム攻撃側が有利な状態となってしまった。

• レフェリーが、攻撃側の反則が起こっているにもかかわらず、これは防御側の影響であるとの認識で試合を続行させてしまうことが見られるが、このようなアドヴァンテージ解釈は、明らかに間違いである。試合がルールに適合した状態で続けられないのであれば直ちに進行をとめなければならない。

• レフェリーは、防御側が反則をおかしていても、ルールの定める条件のもとで、そのまま試合を続行させることが認められているが、このアドヴァンテージを攻撃側が有効に活用しないので、一段階遅れた時点で防御側の反則を摘発した。これはいわゆる「二重のアドヴァンテージ」と称する状態である。

• レフェリーが、防御側に段階的罰則適用に相当する反則、もしくは非スポーツ的行為が見られる状態であっても、それがまさにクリアーゴールチャンスにあるからとして、試合をとめずに続行させることはそれ自体正しい。このアドヴァンテージ認定の結果は、得点成功か7mスローになるが、この時レフェリーは往々にして適切妥当な罰則の適用を省略または失念するというあやまちをおかすことがある。アドヴァンテージ解釈の結果が得点か7mスローにあることにとらわれて、相当罰則の運用を無視し欠落させてはならないことまで言及する次第である。

正しいアドヴァンテージルール適用の重要性について

アドヴァンテージルール適用上の技術的ポイントのいくつかを紹介したが、加えてさらに、この件についての首尾一貫性を強調するため、若干の個人的な意見を述べる。

• 第1に、反則をおかしたことにより、そのチームが有利な状態になることは正しくない。

• 第2に、試合の流れの円滑さを美しいものと考えることである。試合が常に動きをとめることなく続く状態は、それが頻繁なフリースローやペナルティスローによる中断を見るよりはるかに魅力的であること。そして観衆は、流れるような動きの中から生じる得点の方が単なるペナルティスローのそれよりもはるかに好ましいものと見ている。

• 第3に、試合内容での動きや流れが失われるということは、ボールとプレイヤーの絶え間のない動きによるコンビネーションによる成功を目指して、戦術的に集中徹底トレーニングを積んだチームにとっては不利となる。かような、めまぐるしい動きに対しての防御側は、不断のポジションチェンジを繰り返さなければならず、すなわち防御プレイヤーは本来の防御ポジションを見捨てて移動を余儀なくさせられ、最適の活動はできなくなってしまう。

これらの状況のもとでは、当然アドヴァンテージルールの正しい適用が実行される場合に、フリースローによる中断があると、防御側にとっては、陣型の立て直しの時間的余裕を持つことになり、しかも防御側の活動に好都合なポジション配列編成が可能となってしまうのである。

もと国際審判員の一員として、私は正直に告白するが、それは攻撃側が何らかの行動を起こすやいなや、防御側のベンチから

ゲームをとめろ！

相手プレイヤー（の動きを）とめろ！

相手のコンビ（パスやランニングの）とめろ！

などという、呼び声が異口同音に発せられるのを、今までに数知れぬくらい聞かされてきたことである。

もとより、正しいアドヴァンテージルール適用は、決して簡単容易なことではない。我々が今までに見聞きしてきたように、それはハンドボールの技術と戦術にわたっての基本的知識と、当然のことながら最高度の注意力が求められるからである。

レフェリーは、自身のおかすミス（特に初級者には良くあることだが）で失望落胆してはならない。経験を積むに従って、失敗をおかすことは少なくなり、そのレフェリーのパーフォーマンスの質は確実に向上することになる。

1989 IHFシンポジウムレポート No.8

レフェリーの任用に関する原則とその基本的な考えについて

ヤニス・グリンベルガス（ソ連）

IHF／PRC理事

IHF／PRCは1975年、すでに以下にあげる項目でIHF主催の各種大会にレフェリーをどのように任用するかの原則を決定発表している。

a）レフェリー任用は、IHF加盟国を対象として、できるだけ多くの国から選ぶようにする。

b）IHF主催の最重要イベントである、オリンピック大会・男子世界選手権大会には、現時点での最高レベルレフェリーを任

用するため、通常、当該大会の約半年前に実施される選抜テスト（試合吹笛も含む）の結果に基づいて準備されることになっている。

c）その他のIHF主催イベントについては、60～70％は経済的な理由により地理的条件を考慮に入れて決定する。それと並行して当該大会にチームが参加出場しない中立的立場の国からできるだけ多く選ぶように努力する。

d）すべてのIHF主催イベントには、各大陸からレフェリー部門代表者が役員として任用される。

e）ヨーロッパカップ大会の準々決勝以前の試合については、地理的経済的条件を考慮するが、準決勝・決勝では、その時の最高レベルのレフェリーを任用する。

一覧表を見てもらえば、今まで述べた原則によって有効に実施されていることがわかるはずである。

ヨーロッパカップ大会の準決勝と決勝は、IHFイベントの中でも特殊な性格のものであり、これらはレフェリーにとっては、長年にわたって優秀な実績を示した者に対する激励と勲章のようなものである。もちろんのこと、これらのレフェリー諸氏は素晴らしい働きをするであろうが、ここで忘れてはならないことは「実り多き50歳定年」ということである。それ以外にも、優秀であれば各種イベントの決勝戦には地元のレフェリーが登用されることもあり得る。

IHFイベントにレフェリーを派遣する国が多くなればなるほど、一層のこと試合の運営管理についてのPRCのガイドラインを良く理解することが大切である。任用されたレフェリーは、大会での吹笛経験と最新の知識情報を各人の国の仲間たちに必ず伝達しなければならない。PRCは本来の目的である、ルール運用の誤差・格差を解消して、どこでも同じ取り扱いが実現するための努力を推進する。同時に、新しい有能なレフェリー要員の確保と発掘にも大きな関心を持つ。

PRCが新人発掘、養成の分野で、その対象となるレフェリーの成長向上が好ましいものであるかどうかの観察も容易であり、あるペアの評価がすめば、次のペアと交代させるなどの方法で、ペアのレベルアップを促進するように考える。

すべての世界選手権大会とヨーロッパカップ大会準決勝以後の試合には、必ずPRC理事が同席して、観察・評価・分析に当たるが、我々としては、各試合に何らかの成果をあげたレフェリー諸氏が、その総合分析された多くの後日反省資料を自分の国に持ち帰り、関係方面に伝達することを期待してやまない。

IHFイベントで、レフェリー活動が分析評価の対象とされることは、すでに規定されたことと同様であり、PRCメンバーは毎日早朝からレフェリー諸氏とミーティングを行ない、前日の彼らの活動内容について、忠告もしくは助言を与えて共通の理解にまとめあげる。ここでの話し合いでは、中身がベストであったレフェリー活動と同じくレフェリーのエラーについても分析・討論されるので、両者に多くの利点をもたらすことにもつながる。

ヨーロッパカップ大会に関連しては、補欠制度というものがある。毎回この種のイベントには、多数のレフェリーが任用され、それも常に新しい名前が現われることが多い。はじめのラウンドでは、予選リーグと準々決勝までは多数のレフェリーを必要とするので、同時に彼らの吹笛ぶりをテストし、激励するチャンスにもなるが、彼らがその第1ラウンドでの「熱い体験」が、有望・期待性が高いものであったとしても、第2ラウンドでは、より一層強力なチーム同士の試合となるためベストグループのレフェリーから任用することが当然となる。

遺憾なことであるが、今もなお、ヨーロッパカップ大会は、経済的要因が問題視されており、クラブは常に財政的出費負担能力の不足を訴えている。そのため、中部ヨーロッパでは、ほとんど全面的に地元レフェリーが、その任に当たり、北部・東部では、それぞれの地域でレフェリーを担当させるようにしている。

中部ヨーロッパのレフェリー任用のやり方は、北部・東部に比べて地理的条件により、最も安い費用で済ませているので、中部のレフェリーは、他に比べてはるかに多いチャンスに恵まれることになる。このような不公平・不均衡の是正こそ、緊急事とすべきであろう。私が思うには、何千人からの観衆を集めて、それ相当の収入がホームチーム側にもたらされる試合には、高い金を払うに値するレフェリーを招くようにしてもよいのではないか。

前記のやり方では、国内でトップグループに属さない第3、第4、第5ともいえるペアには、チャンスが回ってこないので、悪循環的に実地経験が乏しくなるのは当然である。このことについては、PRCは実効ある分析を目指しての検討を約束する。

以上が現行のIHFイベントレフェリー任用についてである。

レフェリー活動のモットーは、ハンドボールゲームは、レフェリーあってこそ満足をもたらすものであり、そして立派な運営処理能力の成果によってレフェリーにも喜びを与えるものであってほしい。

各地の記録から・・・

東北

第26回東北総合選手権大会

（2月9～11日／仙台市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
学石ク 17－15 野辺地ク
宮城教員 33－21 羽後高
山形新球会 24－18 聖光ク
青森ク 29－18 東北大

▼2回戦
花巻ク 26－15 学石ク
宮城教員 31－20 山形航空電子ク
山形新球会 25－24 湯沢ハンドボールク
岩手大 26－20 青森ク

▼準決勝
花巻ク 31－20 宮城教員
岩手大 20－15 山形新球会

▼決勝
花巻ク 19（12－9、7－9）18 岩手大

〈女子〉

▼1回戦
ムネカタ 22－11 米沢女高OG
盛岡二高 19－16 大農OG
涌谷高 19－12 あすなろク
大曲農高 29－12 殖産銀行HC

▼2回戦
ムネカタ 20－12 聖和学園高
盛岡二高 17－10 野辺地ク
白梅三英美会 25－12 涌谷高
郡山女子 18－15 大曲農高

▼準決勝
ムネカタ 23－15 盛岡二高
白梅三英美会 18－17 郡山女子

▼決勝
ムネカタ 24（14－8、10－7）15 白梅三英美会

宮城県春季選手権

（4月19～22日／仙台市体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦
育英ク 18－15 東北大
宮城教育大 28－5 仙台電波高専
東北電力 27－15 白虹会
教員 41－9 宮城高専

▼2回戦
東北学院大 22－12 育英ク
東北福祉大 24－11 宮城教育大
仙台大 22－10 東北電力
学院大OB 28－18 教員

▼準決勝
東北福祉大 20－15 東北学院大
学院大OB 23－19 仙台大

▼決勝
学院大OB 19（10－9、9－9）18 東北福祉大

〈高校男子〉

▼1回戦
佐沼 27－8 泉館山
仙台西 28－14 仙台
泉松陵 24－15 仙台商
仙台三 24－17 古川
古川商 33－18 学院榴岡
宮城工 27－11 名取北
塩釜 25－12 宮城広瀬
築館 24－17 東北
仙台二 28－10 電子工

▼2回戦
古川工 34－13 佐沼
仙台西 14－13 泉松陵
仙台一 15－13 仙台三
仙台南 25－19 古川商
育英 30－9 宮城工
仙台向山 34－8 塩釜
一迫商 29－14 築館
仙台東 30－13 仙台二

▼3回戦
古川工 37－8 仙台西
仙台南 24－13 仙台一
仙台向山 21－20 育英
仙台東 34－14 一迫商

▼準決勝
古川工 28－18 仙台南
仙台東 24－13 仙台向山

▼3位決定戦
仙台南 24－16 仙台向山

▼決勝
古川工 31（17－15、14－11）26 仙台東

〈女子〉

▼1回戦
朴沢女 40－8 仙台東
仙台女商 27－3 宮城広瀬
宮一女 29－2 古川女
聖和 40－4 飯野川
古川商 36－2 築館女
宮二女 61－3 泉館山
涌谷 16－4 塩釜女
宮三女 28－11 佐沼

▼2回戦
聖和 24－6 仙台女商
宮一女 15－14 朴沢女
古川商 26－9 宮二女
涌谷 10－9 宮三女

▼準決勝
聖和 25－13 宮一女
古川商 9－4 涌谷

▼3位決定戦
宮一女 18－9 涌谷

▼決勝
聖和 23（15－7、8－8）15 古川商

関東

第8回千葉県クラブカップ

（2月24日、25日／我孫子市民体育館）

▼1回戦
道野辺ク 12－0 沼南ク
スティーラーズ 12－0 佐原ク
市松ク 12－0 流山中央ク
あさひク 27－24 柏南ク

▼2回戦
市川FOG 28－14 道野辺ク
スティーラーズ 不戦勝
小金ク 30－19 市松ク
若松ク 28－22 あさひク

▼準決勝
市川FOG 34－31 スティーラーズ
小金ク 32－21 若松ク

▼決勝
市川FOG 24（11－7、13－14）21 小金ク

東京都春季大会

〈男子〉

▼1回戦
学芸大附 17－12 日大二
足立 33－7 小岩
拝島 16－14 五商
清瀬 21－7 小平南
小金井北 37－5 北多摩
本所 21－8 荻窪
新宿 17－12 葛飾野
小石川工 12－0 光丘
八王子東 23－17 府中西
保谷 21－6 秋留台
安田学園 20－9 上野
井草 25－10 東
大崎 7－6 雪谷
東村山 14－11 南多摩
山崎 15－10 府中東
深川 12－0 高島
城北学園 12－0 南
大泉北 21－9 杉並
永山 12－0 野津田
東海大菅生 31－6 武蔵野北
目黒 14－11 黒田川

西 25－11 白鷗
青山 16－6 早実
日野 23－14 桜美林
東大和 17－11 砂川
蒲田 26－10 大森東
成城 34－1 鷲宮
石神井 34－4 紅葉川
田無 24－14 福生
秋川 11－10 武蔵村山東
大泉 29－9 武工大附
農大一 33－7 佼成
青山学院 14－10 城西
府中 47－10 田無工
中大附 19－9 科技学園
世田谷工 21－11 豊多摩
江戸川 27－9 広尾
富士 19－10 筑波大駒場
三鷹 49－6 片倉
神代 17－8 昭和一

▼2回戦

学芸大附 12－0 明正
足立 21－11 両国
日野台 28－11 拝島
小金井北 27－10 清瀬
開成 16－15 本所
新宿 9－8 小石川工
八王子東 33－13 創価
保谷 15－12 武蔵村山
江東工 13－11 安田学園
井草 17－16 大崎
東村山 27－2 小金井工
羽村 23－15 山崎
深川 36－5 専大附
城北学園 20－16 大泉北
国立 21－19 永山
東海大菅生 25－10 武蔵

目黒 22－14 淵江
西 26－14 青山
日野 16－13 国分寺
東大和 18－14 館
蒲田 29－12 駒込
成城 29－15 石神井
富士森 22－20 田無
秋川 30－8 久留米
修徳 33－14 大泉
農大一 21－11 青山学院
府中 26－10 調布北
中大附 21－13 東大和南
世田谷工 20－11 江北
富士 22－10 江戸川
三鷹 21－8 錦城
神代 27－9 久留米西

▼3回戦

足立 16－14 学芸大附
小金井北 17－15 日野台
新宿 21－12 開成
八王子東 33－15 保谷
井草 17－15 江東工
東村山 18－8 羽村
深川 24－11 城北学園
国立 14－13 東海大菅生
西 14－11 目黒
日野 23－16 東大和
成城 22－15 蒲田
富士森 22－14 秋川
修徳 15－14 農大一
府中 24－20 中大附
富士 18－17 世田谷工
三鷹 28－21 神代

▼4回戦

小金井北 17－12 足立
八王子東 21－12 新宿

東村山 22－14 井草
国立 21－13 深川
日野 13－11 西
成城 20－10 富士森
府中 21－15 修徳
三鷹 25－15 富士

▼5回戦

明星 33－9 小金井北
南野 19－18 八王子東
早大学院 22－11 東村山
日体荏原 25－11 国立
拓大一 19－13 日野
成城 31－16 駒大高
立川 22－16 府中
東京 18－12 三鷹

▼6回戦

明星 16－11 南野
日体荏原 17－9 早大学院
拓大一 15－14 成城
東京 16－13 立川

▼準決勝

明星 18－13 日体荏原
東京 17－11 拓大一

▼3位決定戦

日体荏原 21－14 拓大一

▼決勝

明星 20（12－4, 8－4）8 東京

〈女子〉

▼1回戦

東海大菅生 15－0 久留米

▼2回戦

福生 8－1 武蔵
日野 22－2 農業
八雲学園 14－7 大崎
日野台 13－4 南野

府中東 19－3 武蔵村山東
富士 11－9 小岩
桜水商 10－7 広尾
神代 15－5 砂川
武蔵野女 16－6 久留米西
目黒 20－1 荻窪
小金井北 8－5 武蔵野北
五商 9－8 東大和南
井草 8－7 江戸川
八王子東 17－14 桐朋女
田無 15－7 文華女
豊多摩 10－3 東
国立 11－8 保谷
東大和 17－6 東海大菅生
菊華 28－0 農大一
共立第二 21－5 府中西
清瀬 16－7 野津田
立教女 14－11 雪谷
蒲田 16－4 日大二
小平 14－2 調布北
国分寺 12－0 武蔵村山
西 12－4 墨田川

▼2回戦

日野 23－5 福生
八雲学園 20－5 一商
日野台 12－6 府中東
富士 10－8 桜水商
武蔵野女 11－6 神代
三商 10－1 目黒
五商 6－1 小金井北
井草 4－2 学芸大附
八王子東 11－9 田無
上野 9－5 豊多摩
東大和 12－5 国立
菊華 30－1 白鷗
共立第二 16－8 清瀬

国分寺 13－8 小平
西 11－4 本所

蒲田 18－8 立教女

▼3回戦
日野 14－9 八雲学園
日野台 15－1 富士
武蔵野女 20－4 目黒
井草 7－6 五商
八王子東 14－13 上野
菊華 17－8 東大和
共立第二 10－7 蒲田
国分寺 9－7 西

▼4回戦
江東商 17－5 日野
青山学院 13－2 日野台
石神井 10－6 武蔵野女
文大杉並 19－3 井草
佼成女 18－7 八王子東
菊華 8－5 富士森
日体桜華 26－7 共立第二
藤村女 17－6 国分寺

▼5回戦
江東商 30－2 青山学院
石神井 12－8 文大杉並
佼成女 20－5 菊華
藤村女 15－10 日体桜華

▼準決勝
江東商 14－11 石神井
佼成女 10－9 藤村女

▼3位決定戦
藤村女 14－13 石神井

▼決勝
江東商 15（9－3、6－7）10 佼成女

埼玉県中学学徒総体

（5月19～22日／春日部中野中学）

〈男子〉

▼1回戦
喜沢 17－13 谷原
栄進 18－13 富士見西
南陵 16－14 戸塚
中野 33－7 見沼
上大久保 20－16 川島
朝霞五 16－11 浅羽野
南浦和 13－7 本郷
蓮田 14－7 吉川南

▼2回戦
喜沢 19－5 栄進
中野 17－10 南陵
上大久保 13－9 朝霞五
蓮田 12－8 南浦和

▼準決勝
喜沢 15－14 中野
蓮田 17－12 上大久保

▼決勝
蓮田 24－20 喜沢

〈女子〉

▼1回戦
榛松 12－1 戸塚
大久保 8－1 八潮四
八潮 11－7 十二月田
中野 35－1 羽生西
三郷栄 18－4 新座二
春日部 14－11 松山
八潮三 32－11 川口芝

▼2回戦
吉川中央 18－5 榛松
八潮 20－6 大久保
中野 29－2 三郷栄
八潮三 30－4 春日部

▼準決勝
吉川中央 19－5 八潮
中野 20－9 八潮三

▼決勝
吉川中央 16－12 中野

東海

三重県春季選手権

（4月15～30日／四日市工高ほか）

〈一般男子〉

▼1回戦
本田技研爽風会 36－15 西笹川ク
鵜ノ森ク 29－13 四日市中央ク

▼2回戦
本田技研鈴鹿 31－14 本田技研爽風会
三重教員 21－17 尾鷲ク
鳥羽商船 13－11 鈴鹿高専
本田ク 36－14 鵜ノ森ク

▼準決勝
本田技研鈴鹿 34－14 三重教員
本田ク 44－10 鳥羽商船

▼決勝
本田技研鈴鹿 27（18－9、9－10）19 本田ク

〈高校男子〉

▼1回戦
四日市西 16－13 津東
四日市南 28－12 四日市中央工
四日市 24－6 上野工
桑名西 20－3 津工
桑名工 23－5 名張西

▼2回戦
四日市工 39－11 四日市西
高田 14－12 尾鷲
桑名北 10－7 津
四日市南 23－12 川越
四日市 16－10 四日市四郷
亀山 17－8 桑名西
海星 17－9 津西
桑名工 15－5 桑名

▼3回戦
四日市工 31－6 高田
四日市南 12－8 桑名北
亀山 14－12 四日市
桑名工 22－9 海星

▼準決勝
四日市工 31－7 四日市南
桑名工 13－5 亀山

▼3位決定戦
亀山 24－18 四日市南

▼決勝
四日市工 20（8－7、12－3）10 桑名工

〈高校女子〉

▼1回戦
川越 11－3 名張西
四日市南 21－11 四日市西
上野 23－3 亀山
四日市商 26－3 津
桑名 19－4 松阪女
桑名西 21－11 尾鷲

▼2回戦
暁 32－6 川越
四日市南 17－6 上野
四日市商 27－8 桑名
津東 17－8 桑名西

▼準決勝
暁 21－6 四日市南
津東 15－11 四日市商

▼3位決定戦
四日市南 13－12 四日市商
▼決勝
暁 19（12－6, 7－0）6 津東

〈中学男子〉
▼1回戦
東員第二 14－8 川越
四日市南 13－12 白子
▼2回戦
西朝明 14－6 菰野
西笹川 21－7 朝明
笹川 27－5 東員第二
亀山 33－5 四日市南
▼準決勝
亀山 24－18 西笹川
笹川 24－7 西朝明
▼決勝
亀山 24（10－8, 6－8, 2－2, 2－2, 1－1, 3－2）23 笹川

〈中学女子〉
▼1回戦
東員第二 9－6 柘植
▼2回戦
西笹川 43－5 羽津
西朝明 8－5 大安
亀山 11－7 四日市南
笹川 16－4 名張北
朝明 18－6 阿山
菰野 14－6 名張桔梗ヶ丘
北勢 28－2 三雲
白子 23－2 東員第二
▼3回戦
西笹川 14－2 西朝明
笹川 6－3 亀山
白子 19－6 朝明
北勢 11－7 菰野
▼準決勝
北勢 13－13 白子
西笹川 8－5 笹川
▼決勝
西笹川 15（10－2, 5－6）8 北勢

近畿

第23回滋賀県室内総合選手権

（2月11、18日／彦根東高、滋賀県立体育館）

〈男子〉
▼1回戦
八幡工高 21－14 ハンダーズ
八幡ク 18－12 滋賀大教育
野洲高 22－13 芹汀会
長浜北高 18－11 モック
京セラHC 32－15 全滋賀医大
高島ク 32－9 守山ク
▼2回戦
滋賀教員 18－15 八幡工高
八幡ク 20－15 野洲高
高島ク 24－15 長浜北高
彦根東高 22－13 京セラHC
▼準決勝
滋賀教員 23－19 八幡ク
高島ク 21－20 彦根東高
▼決勝
滋賀教員 22（10－8, 12－8）16 高島ク

〈女子〉
▼1回戦
高島高 棄権 滋賀ク
多賀中 8－7 河瀬高
▼2回戦
彦根商高 15－7 彦根西ク
松下電工 24－7 多賀中
高島高 20－5 大津ク
彦根東高 12－12 守女ク（2 PTC 0）
▼準決勝
彦根商高 21－8 高島高
松下電工 14－13 彦根東高
▼決勝
彦根商高 22（14－6, 8－9）15 松下電工

近畿高校新人大会

（日程、場所不明）

〈男子〉
▼リーグ戦
那賀（和歌山）19－15 正強（奈良）
兵庫育英（兵庫）26－19 彦根東（滋賀）
那賀 23－21 大谷（京都）
正強 27－15 彦根東
兵庫育英 26－13 大谷
那賀 19－13 彦根東
兵庫育英 23－22 正強
彦根東 24－9 大谷
兵庫育英 18－17 那賀
正強 22－9 大谷
〔順位〕①兵庫育英②那賀③正強④彦根東⑤大谷
▼順位決定トーナメント準決勝
兵庫育英 21－20 正強
桃山学院 19－10 那賀
▼3位決定戦
那賀 20－13 正強
▼決勝
桃山学院 19（6－11, 13－7）18 兵庫育英

〈女子〉
▼リーグ戦
東宇治（京都）14－7 那賀（和歌山）
彦根商（滋賀）16－4 富雄（奈良）
夙川学院（兵庫）18－6 東宇治
彦根商 22－5 那賀
夙川学院 16－3 富雄
彦根商 25－8 東宇治
富雄 7－7 那賀
富雄 11－6 東宇治
夙川学院 13－4 那賀
〔順位〕①彦根商②夙川学院③富雄④東宇治⑤那賀
▼順位決勝トーナメント準決勝
宣真 26－8 富雄
夙川学院 12－4 彦根商
▼3位決定戦
彦根商 25－9 富雄
▼決勝
宣真 13（6－3, 7－2）5 夙川学院

第10回京都府高校選手権

（4月15日～5月3日／田辺中央体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
桃山 11－9 日吉丘
久御山 16－4 北稜

▼2回戦
大谷 21－17 桃山
洛西 32－8 洛星
乙訓 22－11 両洋
城南 15－7 西宇治
東山 24－10 塔南
洛北 16－12 平安
京都学園 16－8 田辺
東宇治 28－9 向陽
京都西 19－15 東稜
西乙訓 15－11 同志社
鴨沂 23－8 成章
洛水 13－11 山城
北嵯峨 26－9 城陽
嵯峨野 23－18 伏見工
堀川 18－13 木津
桂 23－8 久御山

▼3回戦
洛西 27－9 大谷
城南 13－8 乙訓
東山 17－15 洛北
東宇治 28－7 京都学園
京都西 29－11 西乙訓
洛水 21－10 鴨沂
北嵯峨 20－10 嵯峨野
桂 28－13 堀川

▼4回戦
洛西 9－7 城南
東宇治 27－12 東山
京都西 23－13 洛水
桂 24－16 北嵯峨

▼準決勝
洛西 12－11 東宇治
桂 21－20 京都西

▼3位決定戦
東宇治 19－10 京都西

▼決勝
桂 29（17－9、12－8）17 洛西

〈女子〉

▼1回戦
北嵯峨 9－8 西八幡
北稜 16－9 日吉丘
桃山 12－6 鴨沂
精華 11－11 明徳商
桂 19－1 城南
洛西 25－5 城陽
西宇治 20－3 西乙訓
光華 22－7 八幡
西山 13－12 乙訓
塔南 12－0 久御山
洛北 33－2 田辺
京都女 26－2 山城
洛水 36－6 洛東

▼2回戦
東宇治 28－9 北嵯峨
桃山 11－10 北稜
桂 19－6 精華
西宇治 18－11 洛西
東稜 37－4 光華
西山 10－9 塔南
京都女 14－11 洛北
向陽 17－15 洛水

▼3回戦
東宇治 34－8 桃山
桂 10－7 西宇治
東稜 19－5 西山
京都女 10－8 向陽

▼準決勝
東宇治 13－12 桂
東稜 15－10 京都女

▼3位決定戦
京都女 8－6 桂

▼決勝
東宇治 24（14－2、10－3）5 東稜

中国

中国高校

（2月11、12日／日新製鋼体育館、呉市体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦
東岡山工（岡山） 14－11 境（鳥取）
下松工（山口） 31－9 浜田水産（島根）
呉港（広島） 19－11 境
下松工 31－13 東岡山工
呉港 32－12 浜田水産
下松工 27－10 境
東岡山工 28－8 浜田水産
下松工 27－13 呉港
境 23－8 浜田水産
呉港 23－16 東岡山工

〔順位〕①下松工②呉港③東岡山工④境⑤浜田水産

〈女子〉

▼リーグ戦
境（鳥取） 19－7 西大寺（岡山）
山陽女子（広島） 24－10 松江市女（島根）
華陵（山口） 28－5 西大寺
境 26－6 松江市女
華陵 29－8 山陽女子
西大寺 18－10 松江市女
境 11－11 山陽女子
華陵 39－6 松江市女
山陽女子 14－12 西大寺
華陵 21－8 境

〔順位〕①華陵②境③山陽女子④西大寺⑤松江市女

山口県春季一般大会

（4月1、8日／山口県立体育館）

〈男子〉

▼1回戦
興亜石油 23－14 周南クラブ
山口大 24－21 徳山クラブ

▼2回戦
山口県教員団A 33－6 興亜石油
徳山曹達 31－11 山口県教員団B
下松クラブ 24－14 岩国クラブ
下関クラブ 23－18 山口大

▼準決勝
山口県教員団A 27－14 徳山曹達
下関クラブ 27－20 下松クラブ

▼決勝
山口県教員団A 28（14－11、14－10）21 下関クラブ

〈女子〉

▼リーグ戦

- 徳山クラブ 28－8 周南クラブ
- 山口クラブ 22－10 周南クラブ
- 徳山クラブ 20－14 山口クラブ

〔順位〕①徳山クラブ②山口クラブ③周南クラブ

第45回岡山春季大会

（4月14～24日／倉敷商高、総社高）

〈男子〉

▼1回戦

- 吉備 29－8 大安寺
- 西大寺 16－9 邑久
- 水島工 14－10 津山
- 倉敷商 23－9 芳泉
- 児島 23－6 備前東
- 古城池 25－12 関西
- 総社南 15－8 矢掛
- 理大附 23－8 金川
- 玉野 21－5 青陵
- 一宮 12－11 落合
- 天城 19－6 操山
- 倉敷工 26－4 高梁
- 岡山工 24－3 津山工

▼2回戦

- 東岡山工 23－6 吉備
- 水島工 25－9 西大寺
- 児島 11－7 倉敷商
- 倉敷南 13－7 古城池
- 総社南 13－10 理大附
- 天城 19－10 一宮
- 倉敷工 15－12 岡山工

▼3回戦

- 東岡山工 25－10 水島工
- 倉敷南 17－16 児島
- 総社 9－8 総社南
- 倉敷工 15－8 天城

▼準決勝

- 東岡山工 30－11 倉敷南
- 総社 8－7 倉敷工

▼3位決定戦

- 倉敷南 21－11 倉敷工

▼決勝

- 東岡山工 22（11－3、11－8）11 総社

〈女子〉

▼1回戦

- 倉敷中央 10－9 一宮
- 真備 17－1 落合
- 倉敷商 8－4 青陵
- 倉敷南 18－11 矢掛
- 総社 21－3 芳泉
- 総社南 14－6 津山商
- 操山 9－6 天城

▼2回戦

- 玉野 18－4 倉敷中央
- 大安寺 8－7 朝日
- 児島 18－9 真備
- 光南 21－5 倉敷商
- 倉敷南 11－7 古城池
- 総社 15－9 津山
- 備前東 16－8 総社南
- 西大寺 23－4 操山

▼3回戦

- 玉野 26－5 大安寺
- 光南 17－12 児島
- 総社 20－10 倉敷南
- 西大寺 25－4 備前東

▼準決勝

- 玉野 11－10 光南
- 西大寺 19－4 総社

▼3位決定戦

- 総社 13－12 光南

▼決勝

- 西大寺 22（16－4、6－4）8 玉野

九州

全国高校選抜鹿児島県予選

（1月13～15日／隼人町営体育館、国分市総合体育館）

〈男子〉

▼1回戦

- 鹿児島中央 棄権 頴娃

▼2回戦

- 鹿児島工 29－14 鹿児島中央
- 甲陵 23－8 加世田
- 鹿児島商 20－13 隼人工
- 鹿児島南 17－10 笠沙
- 鶴丸 21－16 国分
- 加治木 29－8 出水工
- 大島 24－4 指宿
- 出水 29－18 加治木工

▼3回戦

- 鹿児島工 21－13 甲陵
- 鹿児島南 17－10 笠沙
- 加治木 14－11 鶴丸
- 大島 19－13 出水

▼決勝リーグ

- 鹿児島工 24－11 鹿児島南
- 鹿児島工 23－6 加治木
- 鹿児島工 20－13 大島
- 大島 20－10 鹿児島南
- 大島 20－10 加治木
- 鹿児島南 10－9 加治木

〔順位〕①鹿児島工②大島③鹿児島南④加治木

〈女子〉

▼1回戦

- 鹿児島純心 21－13 徳之島
- 奄美 21－6 鹿児島中央
- 国分実 12－9 牧園
- 鹿児島南 16－8 大島

▼決勝リーグ

- 鹿児島純心 14－6 国分実
- 鹿児島純心 27－8 奄美
- 鹿児島純心 13－12 鹿児島南
- 国分実 15－14 鹿児島南
- 国分実 21－5 奄美
- 鹿児島南 27－6 奄美

〔順位〕①鹿児島純心②国分実③鹿児島南④奄美

第18回九州高校選手権大会

（2月3、4日／熊本県立総合体育館）

〈男子〉

▼1回戦

- 久留米工大付（福岡）19－12 長崎日大（長崎）
- 都城泉ヶ丘（宮崎）23－18 鹿児島工（鹿児島）
- 興南（沖縄）23－15 神崎農（佐賀）
- 大分電波（大分）20－18 九州学院（熊本）

▼準決勝

- 久留米工大付 19－12 都城泉ヶ丘
- 大分電波 24－16 興南

▼3位決定戦

- 興南 25－11 都城泉ヶ丘

▼決勝

- 大分電波 14（5－7、9－4）11 久留米工大付

〈女子〉

▼1回戦

- 九州女子（福岡）19－18 具志川（沖縄）
- 熊本女商（熊本）24－9 鹿児島純心女（鹿児島）
- 本庄（宮崎）19－14 聖和女子学院（長崎）
- 大分雄城台（大分）29－14 神崎農（佐賀）

▼準決勝

- 熊本女商 29－15 九州女子
- 本庄 19－18 大分雄城台

▼3位決定戦

- 九州女子 15－12 大分雄城台

▼決勝

- 熊本女商 25（9－5、16－4）9 本庄

“小さな掛金、大きな補償„でおなじみの

900万人の保険

スポーツ安全保険

が4月からかわります。一層有利になりました。

主な改定

- ★ 加入区分、掛金が改められました。
- ★ 死亡・後遺障害が最高1,400万円に増額され、入院通院日額も引き上げられました。
- ★ 補償の対象になる治療日数が「4日以上」に短縮されました。
- ★ 賠償責任保険の補償限度額が1億円に増額されました。
- ★ 心蔵マヒなどの突然死等に対し見舞金が支払われることになりました。

5人以上のグループでこの保険に加入できます。

区分			掛金（1人年額）	傷害保険（保険金額） 死亡・後遺障害	入院	通院	賠償責任保険（補償限度額）	共済見舞金
1種	A	■スポーツ少年団、子ども会など中学生以下のグループ ■成人の文化活動、社会奉仕活動のグループ	360円	最高 1,400万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,300円	対人賠償 1億円（自己負担 1,000円） 対物賠償 500万円（自己負担 1,000円）	突然死および日射病熱射病による死亡 50万円
	B	老人クラブ団体 ■団体員がおゝむね60歳以上の人により構成された団体 (例)ゲートボールクラブ、ハイキングクラブなど	500円	400万円	1,800円	800円		
	C	■ママさんバレーなどの地域スポーツのグループ ■高校の運動部、大学、会社などのスポーツ同好会 ■一定の資格のある指導者のグループ	1,100円	1,400万円	4,000円	1,300円		
2種	A	■大学の運動部、実業団のチーム	1,450円					
	B	■難度の高いスポーツをする大学の運動部、実業団のチーム	5,750円					
3種		■とくに難度の高いスポーツをするグループ	9,900円	400万円	1,800円	800円		

対象となる事故　■グループ活動中の事故　■往復途上の事故

保険期間　平成2年4月1日より翌年3月31日まで（申込受付は3月から）

加入申し込み、資料の請求、お問合わせ
スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課および体育協会）、もよりの東京海上火災保険㈱の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館 TEL(03)481-2431（代表）

ソウルで活躍した、もうひとつのジャパン。
これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に
採用されたスカイハンド®ジャパンα-S
すべてのハンドボーラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。
その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンド®ジャパンα-S。
ハンドボールシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。
吸いつくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。
これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。
JAPAN
asics
TIGER
SKYHAND α
α GEL
品番 THH 711 品名 スカイハンド® ジャパンα-S
メーカー希望小売価格 ¥14,700 (消費税抜き)
カラー ●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レッド
サイズ 22.5～29.0㎝
asics® TIGER®
●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)624-1814(専用)・(03)624-2221(大代表)
■ Rは㈱アシックスの登録商標です
株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二九八号
昭和四十年六月十日 第三種郵便物認可
平成二年五月二十六日 印刷
平成二年六月一日 発行
東京都渋谷区神[illegible]一ー一ー一
電話 代表(481)二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)